

はくさいのふち腐れ症軽減対策

(園試高冷地開発センター)

1. 背景とねらい

はくさいの需要は生食向けから加工向けまで幅広くある。今後、県北畑作地帯の主要な土地利用型品目として、夏秋期の安定した継続的出荷が期待される。しかしながら、石灰欠乏に起因するふち腐れ症が作期や年次による気象条件で多発し、生産の不安定要因となっている。これまで黄心系はくさいの好適品種の選定試験を実施してきたが、併せてふち腐れ症の軽減対策を検討したところ、成果が得られたので参考に供する。

2. 技術の内容

1) はくさいのふち腐れ症の発生は品種間差が大きい。また、好適作期でも気象変動による年次間差の大きい品種も認められる。ふち腐れ症に対する主要品種の特性は以下のとおりである。

	発生が少ない	発生が比較的少ない	発生が多い
	年次間差がある		
非黄心系品種	さくみどり3号*	春秋*	CRかなめ
黄心系品種	T-651*	はるさかり* 大福*、黄皇* 優黄(T-652)*	CR新黄*、桜大福 W-1116、新理想

*：推奨品種

- 2) ふち腐れ症は収穫適期を過ぎると急激に発生度および発生株割合が高まるため、適期収穫を励行する。
- 3) 多肥によりふち腐れ症の発生が多くなるが、この傾向は発生しやすい品種ほど顕著である。基肥窒素はa当り1～1.2kg程度を基本とする。
- 4) 被覆硝酸石灰70日タイプ(12-0-0-23)の施用によりふち腐れ症の発生が軽減される。特に、発生の多い品種で明らかな効果が認められる。
 - (1) 基肥窒素施肥量の70%程度を被覆硝酸石灰で施用し、窒素施肥量の不足分を単肥で補正する。リン酸、カリは全量単肥で施用する。
 - (2) 追肥は慣行法に準じて行う。
- 5) 適応地域 県北、高冷地

3. 指導上の留意事項

- 1) ふち腐れ症は単一の対策では十分な発生軽減効果があらわれにくいので、上記対策を総合的に組合せて実施する。
- 2) 地力の維持・排水対策など、圃場の化学性・物理性改善を図り、根の活力を高める。

3) カルシウムの吸収はカリとの拮抗作用もあることから土壌診断を実施し、昭和61年度普及奨励事項「野菜畑の連作障害(施肥過剰)防止のための土壌管理技術」をもとにして、交換性塩基類の適正施肥に努める。また、土壌pHが7.0近くまで高くなるとふち腐れ症の発生を助長するため、pHを6.5以上にしない。

4. 試験成績概要

表1 は種期別、品種別の品質、ふち腐れ症の発生(平成6年)

は種日 (定植時期) (月・日)	品種	球重 (g)	同左 c. v. (%)	球高 (cm)	球径 (cm)	球 緊度	ふち腐 れ症発 生度	ふち腐れ症発生株割合(%)				
								無	極少	少	中	多
5・10 (5・31)	春 秋	1,653	11.8	29.2	17.2	0.37	2.5	90	10	0	0	0
	はるさかり	1,705	9.1	26.2	15.3	0.53	17.5	60	20	10	10	0
	T-652	1,687	11.0	25.5	16.5	0.46	10.0	60	40	0	0	0
	桜大福	1,538	13.4	25.0	14.7	0.54	12.5	60	30	10	0	0
	T-651	1,521	13.4	27.2	15.7	0.43	2.5	90	10	0	0	0
	W-1116	1,512	11.2	26.1	16.4	0.41	12.5	60	30	10	0	0
7・25 (8・12)	春 秋	1,714	17.8	28.5	16.6	0.42	40.0	0	40	60	0	0
	CRかなめ	1,908	13.7	31.2	16.2	0.45	70.0	20	0	20	0	60
	さくみどり3号	1,870	12.2	29.9	15.9	0.47	10.0	60	40	0	0	0
	大福	1,360	16.2	28.7	15.4	0.38	27.5	20	50	30	0	0
	CR新黄	1,700	7.3	32.5	16.8	0.35	85.0	0	0	20	20	60
	黄皇	1,567	7.3	28.8	16.1	0.40	25.0	40	30	20	10	0
	T-651	1,592	9.3	29.5	14.6	0.48	12.8	66	17	17	0	0
	T-652	1,525	7.9	27.3	15.0	0.47	32.5	30	20	40	10	0
新理想	1,584	9.6	30.6	17.0	0.34	67.5	20	10	10	0	60	

表2 被覆硝酸石灰施用による品質、ふち腐れ症の発生(平成6年)

肥料の 種類	球重 (g)	同左 c. v. (%)	球高 (cm)	球径 (cm)	球 緊度	ふち腐 れ症発 生度	ふち腐れ症発生株割合(%)				
							無	極少	少	中	多
被覆硝酸石灰70日	1,764	11.9	29.4	16.2	0.44	37.5	30	10	40	20	0
被覆硝酸石灰40日	1,659	13.1	28.7	14.1	0.56	47.5	20	0	50	30	0
対 照	1,700	7.3	32.5	16.8	0.35	85.0			20	20	60

*は種日：平成6年7月25日は種

*品種：CR新黄